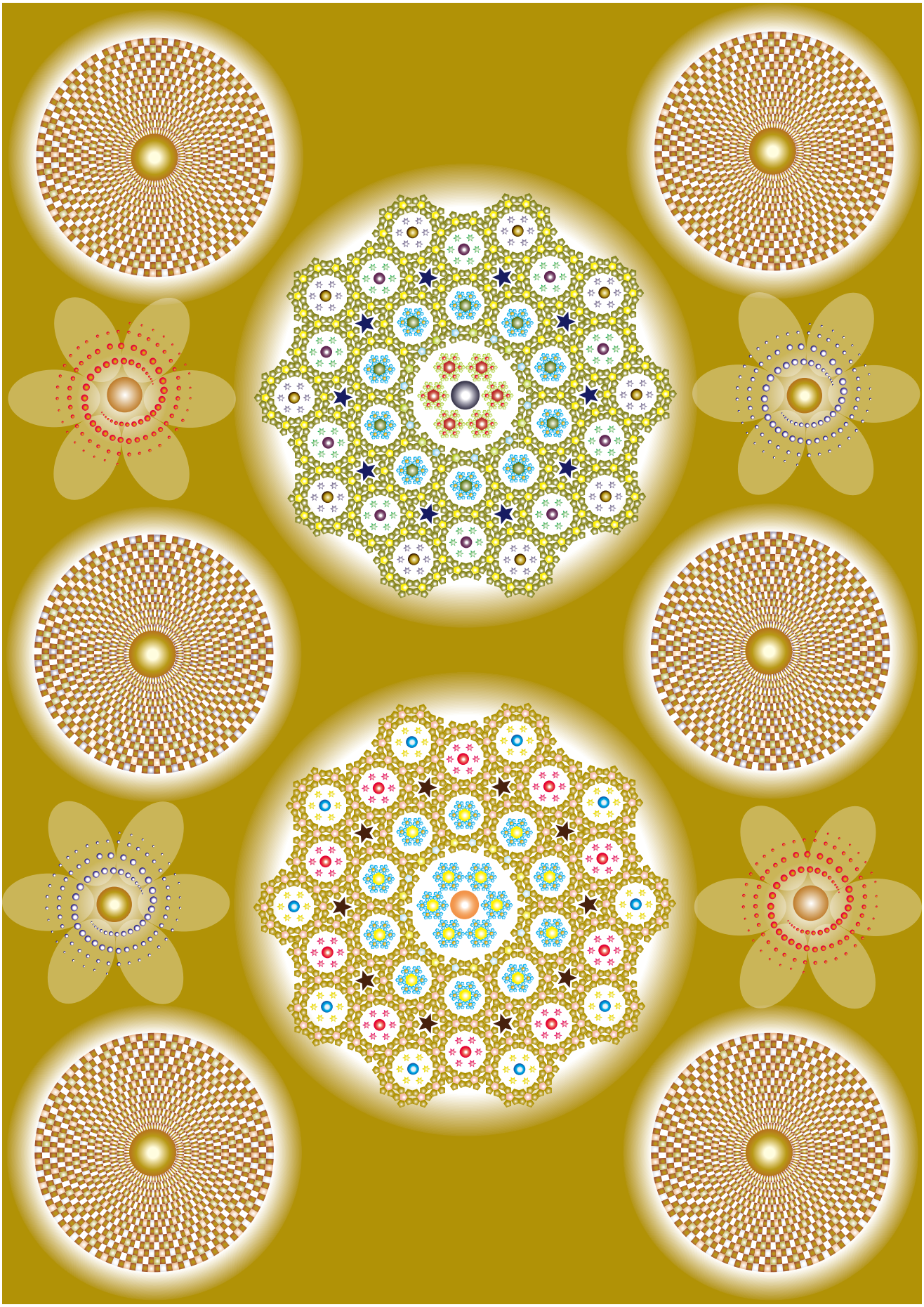

山梨 浩利先生のこころとからだと魂を癒すアート

「神聖（しんせい）・霊性（れいせい）」

本誌を横にしてご覧いただくと、3D（立体的）にみえてきます。この時、脳波は自然界（地球）と同調しています。
眺めることで心身の健幸に、飾って場の浄化などにもお役立てください。

山梨浩利先生の

HADO講座

第15回　形が発する波動－HADO（波動）アート

HADO（波動）の概念

HADO（波動）数値とは、生体・細胞が感じる度合いのこと。

プラスの数値は生体・細胞が共鳴・同調していることであり、この数値が高いほど、生体・細胞が「喜び・感謝している」状態を示しています。

逆に、マイナスの数値は生体・細胞が非共鳴・拒絶していることであり、この数値が低いほど、生体・細胞が「嫌がる・拒否している」ことを示しているといえます。

すなわちHADO（波動）数値とは、自然の一部である人間と、自然界の摂理との調和度合いの目安となるものです。

自然界の規則性は形にあらわれる

雲や山の形、海のサンゴ礁などは一見、不規則に見えますが、自然が創り出した「形」には、じつに様々な規則性が存在しています。広大な自然を前にすると、誰もが「何か」を感じます。その「何か」こそが、自然界の規則性であり、自然が創り出した「形」から発せられているメッセージ＝HADO（波動）です。

五芒星（星型）や六芒星（三角形を上下に組み合わせた六角形）、円、螺旋。こうした形は、自然界の様々なところで目にすることができ、私たちは、それを見て「美しい」と感じます。それは五芒星には「生命の秩序」という情報があったり、六芒星には「安定（何となく落ち着く）」という情報があったりするからです。雪の結晶などがそうですし、地球そのものが、五角形と六角形の組み合わせによって「球」を形づくっています。

このような「自然界の規則性」を基に、様々な想いを形状化したものが、右のページで紹介しているHADO（波動）アートなのです。

HADO（波動）アートの見方

HADO（波動）アートは、見方のコツがつかめると、立体化して見えてきます。

それはすなわち、平面に描かれた色や形が、奥行き、距離感を伴った動画、光として脳に認識されることであり、私たちのより本能に近い脳幹（＝フェアリーブレイン）に働きかけることでもあります。脳幹は、生命の根幹を司る原始的な感覚分野なので、ここへ働きかけることは、私たちが本来、宇宙や大自然の一部であることを思い出させてくれるのです。

エヌ・ピュア　研究・開発顧問
山梨 浩利

1962年静岡県焼津市に生まれる
1985年中央大学理工学部工業化学科卒業。
大手食品会社で主に食品の研究開発に従事。数々の商品を世に送り出す。
サトルエネルギー学会、機器検討委員会などにも参画。その活躍は、広く海外にまで広がっている。
現在、山梨事務所を設立し、微生物、発酵、鉱物をテーマにした本物商品の研究や企画開発などを行っている。
（株）エヌ・ピュア研究開発顧問。